

平成16年度 (2004年度)大学院国際言語文化研究科博士課程 前期課程)
日本言語文化専攻 論述試験問題

下記の問題 (1～18)から4題を選び、日本語で解答しなさい。
問題の選択方法は志望講座により異なるので、次の指示に従うこと。

- ① 第1志望：[日本語文化学講座]または [比較日本文化学講座]
第2志望：[比較日本文化学講座]または [日本語文化学講座]

文化系講座共通問題から少なくとも3題選択すること。残りの1題は自由に選択してよい。

- ② 第1志望：[日本語文化学講座]または [比較日本文化学講座]
第2志望：[応用言語学講座]または [日本語教育学講座]または [現代日本語学講座]
または [日本語教育方法論講座]

文化系講座共通問題から3題選択すること。残りの1題は第2志望講座の問題から選ぶこと。

- ③ 第1志望：[応用言語学講座]または [日本語教育学講座]または [現代日本語学講座]
または [日本語教育方法論講座]
第2志望：第1志望講座以外のいずれかの講座

第1志望講座の問題から少なくとも2題選択すること。
第2志望講座の問題から少なくとも1題選択すること。
残りの1題は自由に選択してよい。

- ④ 第1志望だけで、第2志望の講座がない場合

第1志望講座の問題をすべて (3題)解答すること。
残りの1題は自由に選択してよい。

【文化系講座共通問題】

1. 旧約聖書に「伝道の書」があり、その中に以下のような表現がある。

先にあったことは、また後にもある。先になされたことは、また後にもなされる。日の下には新しいものはない。(1章 9節)

この言葉に賛成するにせよ反対するにせよ、具体例を示しつつ、その意味を論ぜよ。

2. たとえば新しい漢字を習得するとき、単に眼で見て覚えるだけでなく、何度も筆写を繰り返すことによって、いわば「からだ」で覚えた方が有効であることが少なくない。このような「からだ」で覚えるというメカニズムは習得過程全体のなかでいかなる意義をもつものとして位置づけることができるのか。少なくとも具体例を二つ以上挙げて、考えるところを述べよ。
3. 文学作品を論じる場合、その歴史的背景を考慮に入れずに純粹に作品のみを分析の対象にすべきであるという立場があるが、あなたはどうか。賛成であれ反対であれ自分の考えるところを論ぜよ。
4. フランスの社会学者ジャン・ボードリヤールによると、「現代消費社会」の特徴は、「ものの」の第二義的意義の方に重点が置かれることにある。例えば、自動車や家は、その本来の利用価値、つまり交通、住居の手段ではなくなり、それらの「社会的地位のシンボル」となっている。「ものの」の社会的地位のシンボルとしての第二義的価値が、「ものの」の生産と消費の氾濫によって、第一義的価値としての本来の利用価値に取って代わったと考える。そこで、このような社会現象は、現代社会において各国共通のものか、あるいはそうではないか、具体例を挙げながらあなたの考えを述べよ。
5. 次の文は、十六世紀末に来日したイタリア人宣教師ヴァリニャーノの『日本巡察記』の一部である。キリスト教を布教する外国人宣教師たちは、礼儀作法をめぐって日本人との間にしばしばトラブルを起こしていた。彼等ヨーロッパ人は、自分たちが異なった風習の中で育ち、日本人の礼法を知らないことを、日本人の側が考慮すべきだと考えた。これに対して、日本人は次のように語ったという。

「このことについては、あなた方に同情するし、一年や二年なら我慢するが、幾年も経っているのであるから我慢できない。なぜなら、あなた方が日本の風習や礼儀を覚えられないのは、それを覚えようとしないうち、それがあなた方の気に入らないからである。それはあなた方が日本に来て、その数も少ない以上は、日本の風習に従うべきであり、私達は日本の礼式をやめることはできないし、あなた方の風習に従うべきでもない。あるいはまた、あなた方が日本の風習を覚えられないのが、あなた方にその知力と能力が欠けている為であるならば、日本人はそれほど無能なあなた方の教えを受けたりあなた方を師とすべきではない。」

このような異文化接触がもたらす摩擦とその解決法について、上の文を手がかりにして、考えるところを記述せよ。

6. 以下の引用は、現代詩人谷川俊太郎の「みみをすます」の一節である。これを読んで、この詩の言葉・表現・構成等についてその特徴を述べよ。

みみをすます
きのうのあまだれに
みみをすます

みみをすます
いつから
つづいてきたともしれぬ
ひとびとの
あしおとに
みみをすます
めをつむり
みみをすます
ハイヒールのこつこつ
ながぐつのどたどた
ぽっくりのぽくぽく
みみをすます
ほうばのからんころん
あみあげのざっくざっく
ぞうりのぺたぺた
みみをすます
わらぐつのさくさく
きぐつのことこと
モカシンのすたすた
わらじのてくてく
そうして
はだしのひたひた ひたひた……
にまじる
へびのするする
このはのかさこそ
きえかかる
ひのくすぶり
くらやみのおくの
みみなり
みみをすます
しんでゆくきょうりゅうの
うめきに
みみをすます
(……)

注) ぽっくり 駒下駄の一種。主に少女が履く。
ほうば 朴齒下駄。雨の日にはく足駄 高下駄の一種)の別名
モカシン 北米インディアンの柔らかい 鹿)革靴

【応用言語学講座の問題】

7. 下記の文を読み、設問 1～ 3に日本語で解答せよ。

Broadly speaking, two dominant positions have emerged on the issue of language acquisition; the first is best described as a strongly nativist position. From this perspective, the issue of how specific language forms are acquired is presumed to be accounted for by an innate, species-specific system that controls and delimits the course of language development. By this account, language is in fact not so much learned as developed through a maturationally linked process.

The other avenue of approach is a more classically empiricist one that assumes that language acquisition is governed not so much by specialized language structures or operations dedicated to that task, but rather by the activity of generalized processes of cognition. From this more environmentally focused perspective, language learning makes use of the same sorts of cognitive processes that are employed in the acquisition of other complex forms of knowledge.

The issue that most clearly distinguishes these two models of language acquisition is the nature of the system that is presumed to underlie the process. For the nativist the system is assumed to come pre-equipped with the requisite knowledge to establish linguistically based representations; for the empiricist the system is assumed to contain no such specific knowledge, only the processing mechanism for establishing the requisite knowledge from engagement with a complexly structured environment.

設問 1 言語習得に関する nativist position とはどのような考え方であるのか。

設問 2 言語習得に関する empiricist position とはどのような考え方であるのか。

設問 3 nativist position と empiricist position とを明確に区別する相違点とは何か。

8. 語順と焦点 (フォーカス) との関係について、私はきのう一人で下呂温泉^{げろ}に行ってきた」という文に即して論述せよ。日本語と日本語以外の言語とを比較しながら論じてよい。

9. 次の文の意味するところを、具体的な例を用いて説明せよ。

「読み」とは、単に決まったコードにしたがって解読し与えられたメッセージを受け取るだけでなく、新たなコードをつくり出して読むことだ。

【日本語教育学講座の問題】

10. Krashen の Monitor Model の 5つある仮説の中から3つ選び、詳しく説明し、それらの仮説の問題点を述べよ。

11. 学習者のニーズという観点から、日本の大学で学ぶ学生に対する敬語教育について考えるところを述べよ。日本語の敬語の体系を念頭に論じること。

12. (1a)と(1b)の使い分け及び(2a)と(2b)の使い分けについて述べよ。次に、I.の場合とII.の場合の相違について、言語学的に論ぜよ。また、日本語教育での扱い方について自らの考えを述べよ。

I.

- (1a) お金ありますか。
- (1b) お金あるんですか。

II.

- (2a) 何を買いますか。
- (2b) 何を買 うんですか。

【現代日本語学講座の問題】

13. 「語の意味」を分析・記述する方法を説明せよ。適宜、現代日本語の語の例および例文を挙げる
こと。なお、説明の中に下記の用語を含め、用語には下線を施すこと。

用語：類義語、多義語、実例、作例

14. 「自分」という再帰代名詞が照応に関してどのようにふるまうかを概説し、その特性が日本語の
文法論にどのような示唆を与えるかについて述べよ。
15. ラ行子音の音声的特徴を、ダ行子音および側面接近音との違いに基づいて述べよ。さらに、歯茎
接近音あるいは歯茎ふるえ音がラ行子音として用いられることがあるが、このような現象について
解説せよ。

【日本語教育方法論講座の問題】

16. 次の2つの質問に答えよ。
- 設問1 聴解の過程について知るところを述べよ。以下の5つの用語をすべて用いて説明すること。
- ・ ボトムアップ ・ スキーマ ・ 予測 ・ モニター ・ ストラテジー

設問2 次のような指示を与えて聴解の練習を行った。この練習について考えるところを述べよ。

指示：これから短い会話を聞きます。1回テープを聞いた後で5つの質問に答えて
ください。聞きながらメモをとってもかまいません。答を書いた後でもう一度テープ
を聞きます。
では、はじめます。

17. 言語教育において、「電話の伝言をメモする」「ある商品の説明文をつくる」といった一定の課題に
基づいたパフォーマンスをみて、言語レベルを評価することがある。このような評価の利点と問題
点を述べよ。
18. インターネットを用いた言語コミュニケーションでは、チャット、電子メール、ビデオ・コンフェレンス
という手段があるが、それぞれの特徴と利点を述べよ。